

令和6年度第2回鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会 地域連携部会 会議録

日時： 令和7年2月14日（金）午後2時から午後3時15分

場所： 市役所地下1階 団体研修室

出席者： 遠藤善治（障がい福祉課長）、
三浦健（鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会会長）、
橋本結希（障がい者の働くを支えるチーム）、
馬場武士（地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム）、
竹之内純一（障がい者のつながりを支えるチーム）、
佐野由佳（医療的ケア児支援チーム）

欠席者： 菊地謙（鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会副会長）、
竹内直人（障がい分野の情報を発信・啓発するチーム）、
福田弘子（精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム）

事務局： 【鎌ケ谷市障がい福祉課】高橋主幹、加藤
【鎌ケ谷市基幹相談支援センターえがお】渡辺、坂巻、恩田、岩室

傍聴者： 0名

添付資料： ・式次第
・テーマ別チーム会議からの令和6年度活動報告資料
1 「地域連携部会」部会員一覧
2 地域連携部会 テーマ別チーム会議参加者一覧
3 令和6年度鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会年間スケジュール(全体)
4 テーマ別チーム会議(6チーム)検討整理（簡略版）
5 テーマ別チーム会議資料
① 障がい者の働くを支えるチーム
② 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム
③ 障がい者のつながりを支えるチーム
④ 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム
⑤ 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム
⑥ 医療的ケア児支援チーム

・本日の委員の出席者数と傍聴者数の報告

本日の委員の出席者6名、会議成立の定則数の過半数を超えている旨を報告

・部会長挨拶

1 各テーマ別チームからの令和6年度活動報告

鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会（以下「協議会」という。）の各テーマ別チームのリーダーより検討状況を報告した。

(1) 障がい者の働くを支えるチーム

「企業向けアンケート」を350か所に配布したが、返信は2か所のみ、いずれも「興味なし」であった。この実態を踏まえ、企業には地域の障がい者に目を向けてもらうことから始めることとした。まずは、障がい者ご本人の意向を知るため就労移行支援事業所、就労支援事業所A型・B型に通所している方に「就労系アンケート」を実施した。結果の分析は3月のチーム会議で行う。

(2) 地域資源を調査・研究しよりよい方策を提言するチーム

一昨年度にまとめた「提言書」を基に、昨年度は実施したアンケート結果や課題をまとめた「報告書」を協議会の本会議に提出した。今年度は、移動支援の担い手を増やしていく必要があるという課題に焦点をあて、研修会（この研修を受ければ移動支援ができるというもの）を習志野市の「一般社団法人たからばこ」に依頼し、～ガイドヘルパーから始めよう in 鎌ケ谷～を2月9日より実施中。とても好評で28名が受講中である。

(3) 障がい者のつながりを支えるチーム

昨年度に完成させた「困った！どうする!?支援者向けシート」、裏面「つながりを支えるポイント」があまり活用されていないことが分かり、実際にシートを活用した事例を用いて事例検討を行いながらシートの有効的な活用方法を考えていった。学校の先生の研修でも活用してもらう、シートはラミネート加工をしてから配布する等、周知の仕方や配布方法についても検討した。来年度も引き続き活用方法や周知について検討していく。

(4) 障がい分野の情報を発信・啓発するチーム

令和7年1月26日（日）に「鎌ケ谷市障がい福祉サービス事業所等合同説明会～福福フェア～」を開催した。来場者101名、26事業所1当事者団体が参加した。アンケートの回収は45名、回答内容の分析はこれから行う。来年度は10月25日（土）に開催予定で、アンケートの分析や反省点等を話し合い有意義なものにするよう検討していく。

(5) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム検討チーム

「つながるシート」（つながっている・つながっていない・退院して地域への3種類）、「状況チェックシート」、「情報提供書」を実際に活用してもらうよう周知に重点をおいた。計画相談には、相談支援事業所連絡会で説明し実際に活用した感想のフィードバックを受けた。地域包括支援センターには、センター長会議で説明し2月20日にフィードバックをもらう予定。居宅介護支援事業所には、来年度のケアマネ協議会で説明する予定。就労系事業所、医療機関へも

事例検討を行いながら周知していく。訪問看護ステーションには個別に周知を図る方向で検討している。

(6) 医療的ケア児支援チーム

昨年度は、医療的ケア児の災害対策について「提言書」を提出した。令和6年4月より蓄電池の購入に対する補助金が出ることになったが、その情報を知らない方が多いため周知方法を検討した。特別支援学校等に配布するチラシの作成を来年度も引き続き行う。中央地区に福祉避難所をつくって欲しいとの要望については進捗なし。医療的ケア児等コーディネーターの配置については、「千葉県医療的ケア児等支援センター ぼらりす」による研修会を実施し、実態把握のための調査を行った。来年度はこの実態調査の回答を分析し進め方を検討していく。

部会員

障がい者の働くを支えるチームの企業へのアプローチとして、鎌ケ谷市産業フェスティバルに福祉事業所が参加しコラボレーションする等、障がい者と企業が直接触れあう機会を増やしたらどうか。

部会員

鎌ケ谷市内でも障がい者枠の求人をハローワークへ出している企業がある。その企業へインタビューを行ったらどうか。実態が分かりモデルケースとして紹介も出来てよいのではないかな。

部会員

障がい種別によってできる仕事が変わってくるので、特別支援学校でも行っているような実習を通して企業に実感してもらいアプローチするのもよいのではないかな。

部会員

どのチームも外への発信や周知について検討しているので、今後は他のチームと共同して発信をしていくのもよいと思う。

部会員

「鎌ケ谷市障がい者就労系事業所ガイドブック」の周知について、現在は市のホームページに掲載されているがその他の方法も検討したい。参考までに福福フェアはどのように周知したのか教えて欲しい。

事務局

福福フェアの周知方法は、市のホームページへ掲載、市の公式LINEで発信、市内の全ての福祉事業所、特別支援学校、特別支援学級等にチラシを配布した。

部会員

SNSの活用も含めて引き続き周知方法を考えていく。

事務局

チームごとに周知したい対象が違うのでそれぞれ工夫が必要となる。

部会員

市のホームページに掲載されているガイドブック等が、検索した際に上位にヒットするよう検索エンジンを工夫するのもよいと思う。近隣市などはその様になっている。

3 次回鎌ヶ谷市障がい者地域自立支援協議会の議題について

事務局

令和7年2月21日開催予定の本会議の議題は、以下3点とする。

- ・テーマ別チームからの令和6年度活動報告（各チームリーダーより報告する。）
- ・障がいを理由とする差別解消の取組と相談事例について
- ・日中サービス支援型グループホームの評価方法の検討について

→異議なし

部会長

グループホームの地域連携推進会議が義務になるがどのようにやっていくか。

部会員

市から各自治会に地域連携推進会議についてチラシ等を配布し周知してもらいたい。

事務局

令和6年度はすでに2カ所で実施している。自治会長、障がい福祉課ケースワーカー、基幹相談支援センターえがお、当事者の方、職員等が参加していた。内容は、グループホームの説明・見学、苦情対応についての報告、当事者の方から生活の感想等を発表、質疑応答の流れで1時間から1時間半くらいであった。災害時の自治会との連携についても意見が出ていた。

部会員

グループホームの理解を深めるためにも近所の方には是非参加してもらいたい。

部会長

ほかになれば、閉会とする。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

令和7年2月28日

氏名 橋本 結希

氏名 馬場 武士